

カエデ

(すすり泣く声)

モミジ

泣かないで、カエデちゃん

カエデ

…ごめん、でも、私…私…!

モミジ

うん、分かった。無理しなくていい。好きだけ泣きな?

カエデ

モミジちゃん…、ありがとう…モミジちゃんだけが、私の味方だよ

モミジ

何いってんの、当たり前でしょ。私達、双子なんだからさ。

カエデ

えへ、うん、そうだね。

モミジ

いい、私がカエデちゃんのこと、絶対守ってあげるからね。

カエデ

私だってモミジちゃんのこと守るよ!

モミジ

えー?カエデちゃんがー?

カエデ

なによおその言い方!だって私達、双子だよ!一心同体ってやつ!

モミジ

はいはい、私はカエデちゃんだし、カエデちゃんは私だもんね。

カエデ

うー、それはなんとなく違う気もするけどお:

モミジ

そりゃあ私、こんなに泣き虫じゃないもん

カエデ

ちよつとモミジちゃんのイジワルー!

モミジ

ジョーダンよ!ジョーダン!ほーら、もう涙止まったでしょ?

カエデ

あ、ほんとだ、ふふ、あははは!モミジちゃん、大好き!

モミジ

私も大好きよ、カエデちゃん

先生

ちよつと、篠崎さん。いい?

カエデ

はい

先生

あのね、一条さんが昨日日直の仕事、あなたが引き受けてくれたって言う

カエデ

てるんだけど。

カエデ

え?

先生

もしそうなら日直の仕事、昨日全然されてないの、困るなあ。

カエデ ち、違います、私：

一条 ちよつとお、カエデちゃんひどおい！昨日あたしが頼んだらいいよって言うてくれたじゃん！

カエデ え？ええ？

一条 カエデちゃん、あたしの事嫌いなんだ！だから日直の仕事さぼってあたしこと困らせようとしてんでしょ！カエデちゃんひどい！えーん、えーん
先生 ああ一条さん、泣かないで！大丈夫よ！篠崎さん、どうしてこうなってるのかな。先生に説明して？

カエデ 私、私…：すいません…昨日、うっかり…忘れちゃって…

先生 そう、あなた昨日、確かに一条さんに日直の仕事引き受けたのね？

カエデ はい…そうです…ごめんなさい…

先生 はあ、分かりました。引き受けた事はちゃんと責任を持ってやりましょうね。罰として、今日の日直の仕事を篠崎さんがやりなさい。いいですね？はい、わかりました。すいませんでした。

(足音が遠ざかる音)

…ちよつと篠崎。あんたまさか否定しようとしてたわけ？マジうざい。

あ、でも私…

(頬を打つ音)

何口答えてんの？あんたは黙ってうなずいてりやいいの。

ごめんなさい…

一条 ほんつと人間のゴミだよ。あんたなんか一生ひとりぼっちなんだよ。あーゴミに触っちゃったから手汚れちゃったよ。除菌除菌。

(足音が遠ざかる音)

…つく、うう、ひつく、ひつく、モミジちゃん…助けて…！

カエデ 呼んだ？

カエデ うわあああ！！

モミジ なに驚いてんの。あんたが呼んどいて

カエデ だ、だってそんな近くにいると思わなくて…

モミジ つうか！何やってんの！あれじゃカエデちゃんが悪いことになっちゃってんじゃん！

カエデ 見てたんだ…。もういいよ、慣れてるし

モミジ 良くない！なんなのあの教師！目ん玉腐ってんじゃないの！？あの一条のバカ女の目から一滴でも水分がこぼれたかつつーの！

カエデ ちよつ、モミジちゃん、声大きいよ…！

モミジ 大きくもなるわ！あーもー、大丈夫？ほっぺ痛いでしょ？

カエデ こんな全然平気だよ、それより一条さんに聞かれたらモミジちゃんまで殴られちゃう…

モミジ はあ？逆に私が殴りたいんだけど！私の大事なカエデちゃん殴るなんて…許せない…

カエデ いいよ、本当に平気！あ、今日日直の仕事するから、帰るの遅くなるね分かった、私も手伝うよ。

カエデ いい、先生にばれたらまた怒られちゃうし。昇降口で待ってて

モミジ あのねえ、大体あのバカ教師だつて、

(チャイムの音)

あ、ほらほらチャイムだよ！教室帰るから、この話はおしまい！じゃあね！ちよつと、モミジちゃん！…あいつら、絶対許さない。

カエデ …はあ、これくらいいいかな。じゃああとは日誌書いておしまい、と。

モミジちゃん待ってるだろうなあ…

(戸が開く音)

吉野

あれ、篠崎。まだいたの？

カエデ

あ、えっと、日直の仕事、です…

吉野

ああ、一条に押しつけられてたやつか。

カエデ

いえ、私が、忘れてただけなので…

吉野

いいよ、皆知ってるって。あのさ、余計なお世話かもしれないけど、ああいうのしょっちゅうじゃん。ちゃんと言った方がいいんじゃない？

カエデ

…いいんです。慣れてるので。

吉野

ふーん。ま、お前がいいならいいけど。つか、なんで敬語？

カエデ

え？

吉野

おんなじクラスなんだから、敬語いいよ。てか、俺のこと覚えてる？

カエデ

お、覚えてます！吉野くん、ですよ。

吉野

だーから、敬語やめろって

カエデ

すいません…！

吉野

あ、別に怒ってないって。ごめん。

カエデ

…あの、姉を待たせているので、失礼しますっ

吉野

お、おい篠崎！

(戸が開く音 走り去る音)

モミジちゃん！ごめん、おそくなって…

なにあいつ

え？

モミジちゃんに軽々しく話しかけてたむかつく奴

吉野くんのこと？むかつかないよ、いい人だよ。心配してくれたの

カエデちゃん、あいつの肩持つの？

カエデ

そんなんじゃないけど、ていうかなんでモミジちゃん吉野くんのこと嫌いな？

モミジ

カエデ

モミジ

カエデ

モミジ

カエデ

吉野

カエデ

吉野

カエデ

吉野

カエデ

吉野

カエデ

吉野

カエデ

一条

吉野

一条

カエデ

一条

別に？なんか気分悪い、早く帰ろ

え？大丈夫？どつか悪いの？…うわっ！どしたのモミジちゃん、苦しいよ

…カエデちゃんは、私が守るんだから、私だけ見てればいいのよ

え？何？なんて言ったの？

…なんでもない。ほら、行こ

ちよ、ちよと待ってよモミジちゃん！

(教室のざわめき)

篠崎、いいか？

ひっ！…あ、吉野くん

あ、のさ。昨日は、なんか言い方きつくてごめんな？俺口悪いから、つい。

いえ…全然、気にしてない、です…

まじ？よかったー、昨日ずっと気になってたんだよ。

そう、ですか…、吉野くん、優しいんですね。ありがとう、私なんか気に

かけてくれて。ふふっ。

…っ！

どうかしました？

い、いや、篠崎…笑うと結構可愛いのかな

へ！？あ、いやこれは…その…

あれえ？吉野誰としゃべってんの？なんか存在感薄すぎて見えなくない？

(クラスの人が笑う)

うるせえな、お前に関係ないだろ

…なにその言い方。吉野もゴミ側の人間ってわけ？

や、めて、やめて一条さん！吉野くんは関係ないから！

ちよと。あんたの口からあたしの名前が出るとかマジ不愉快なんだけど。

カエデ

一条

ご、ごめんなさい…
ほらみんな、ゴミカプルの誕生です！おめでとー！
(はやしたてる声)

先生

ちよつと、あなたたちうるさいですよ！何してるの！

一条

別に私達なにもしてません。休み時間まで干渉してこないでよセンセ。

先生

…っ、騒ぎすぎないように！いいわね！

(遠ざかる足音)

一条

ちっ、ゴミのせいで怒られたじゃん

吉野

お前らが勝手に騒いだんだろ。キーキーキー猿山のサル以下だな

一条

…吉野、あんたせいぜいこれからゴミとしてがんばってね

(チャイムの音)

カエデ

よ、吉野くんだめだよ！一条さんに謝ったほうがいいよ！

吉野

篠崎は気にしなくていいから。大丈夫、そんな顔すんな。

カエデ

吉野くん…

(夕方、カラスの鳴き声)

カエデ

どうしようモミジちゃん、私のせいで…

モミジ

私的には吉野がどうなろうと知ったこっちゃないんだけど

カエデ

ひどいよモミジちゃん！

モミジ

別にひどくない。私はカエデちゃんさえ守れば後はどうでもいいもん

カエデ

私がよくないの！吉野くん、ひどい目にあつたらどうしよう、先生に相談

先生

したほうがいいかな…ねえモミジちゃ、
本当むかつくわ、あのガキども

カエデ

え？あれ、先生？

モミジ

誰かと電話中みたいだね

先生

なんで私があんなガキの面倒みなくちゃなんないわけ？あー早く教師辞めたい！

モミジ

そーだそーだー、さっさとやめちゃえーも、モミジちゃんシー！

先生

しかもクラスにすんごいどんくさいのがいるの！しかもいじめられてるし、本当迷惑。

カエデ

え…

先生

いまだきいじめとか保護者にはれると面倒なのよ！こつちにとぼつちりこないように、もつとこつそりいじめられろつーの。あー早く転校とかしてくれないかなあ

あ、あ…

カエデ

カエデちゃん、耳ふさぎな。あつち行こう

モミジ

あああ…ああ…

カエデ

カエデちゃん、大丈夫、大丈夫だよ。私がいるから。私がカエデちゃんを守るから

カエデ

うああああ、あああああ！！！！！！

モミジ

…許さない、カエデちゃんを傷つけるやつは、許さない…！

(ハイヒールの音)

先生

あーもうこんな時間。合コン長引きすぎだつーの

モミジ

せーんせ。

先生

あなた…篠崎さん？あなたどうして、こんな時間になにしてるの！？

モミジ

やだな、先生のこと待ってたんじゃないですかあ

先生

私を？どうして…

モミジ

…カエデちゃんを傷つけるとどうなるか、私が特別授業してあげるよ。

先生

なに言ってるの篠崎さん、やめ、やめなさい、こっちにこないで…いやあ
ああああああ！！！！！！！！！！

(ドアを開ける音)

カエデ あれ、どうしたんだろ、みんなが騒いでる

吉野 篠崎、聞いたか？

カエデ あ、おはよう吉野くん。どうしたんですか？

吉野 俺らの担任が、昨日誰かに襲われたらしいよ

カエデ え！？

吉野 今日は授業無しですぐ帰宅だった

カエデ そうなんですか…怖いなあ…

吉野 噂だとボッコボコにされてたってゆうし、あの教師誰かに恨まれてたんじ
やね？おれらは関係ないよ。

カエデ でも先生かわいそう…、あれ、篠崎君、どうしてスリッパなんですか？

吉野 え？いや、これは、気にしなくていい。

カエデ もしかして、上履き隠された！？

吉野 違うよ、忘れたの！

カエデ 嘘言わないでください！待ってて、上履きなら多分あそこに隠されてるは
ず…あった。

吉野 …すっげ、なんで分かるの

カエデ 私、ずっといじめられてきたから、だいたい分かるんです。でも…ごめん
なさい…わたしのせいでは…

吉野 篠崎のせいじゃないよ、俺がしたいことしただけなんだから。

カエデ でも、もう私と話さないほうがいいです。もう、

吉野 いいから！あの子、そんなこと言うな、篠崎。一人はさみしいぞ。

カエデ

：やっぱり吉野くん優しいですね。でも大丈夫、私双子のお姉ちゃんがいるんです。モミジちゃんは絶対私と一緒にいてくれるから、私どんなにいじめられてもさみしくないんです。

吉野 双子？へえ、すげえな。似てる？

カエデ たぶん似ていると思うけど、性格は全然違いますよ。

吉野 うわあ、すげえ会いたいなー、な、今度会わせてよ。

カエデ はい。言っときますね。

吉野 サンキュ。じゃ、また明日な！

カエデ あ、じゃあ、また明日：

(足音の遠ざかる音)

モミジ モミジちゃん、なんでそんなにやにやしてんの

カエデ ふえ！？あ、モミジちゃん！

モミジ また吉野か：カエデちゃん、あいつのこと好きなの？

カエデ ええ！？そんなんじゃないよ！ただ、：また明日って、初めて言われたなあって

あって

モミジ そんなの、別に言われなくたっていいじゃない

カエデ うん、でもモミジちゃんはいつも私と一緒にいてくれるからまた明日って

言わないでしょ？

モミジ ：じゃあいいよ、一緒にいなければいいんだね

カエデ 違う、違うよ！なんでそんなこと言うの！？

だって吉野がいいんでしょ？じゃあ私なんかいらんないじゃない

カエデ いらんない！やだよ、いらんならないで！モミジちゃんがいなくなった

ら私生きて行けない！！

モミジ ：本当？

カエデ うん

モミジ …私が必要？

カエデ 必要どころじゃない、モミジちゃんいなかったら、私生きて行けない
そう。…ならいい。じゃあもう吉野とは話さないで

カエデ え？なんで？

モミジ だって私がいればいいじゃん。吉野なんかいらんよね？

カエデ …、分かった。もう吉野くんとは話さない

モミジ ふふ、いい子だねカエデちゃん。大好きよ。絶対、私が守ってあげる

一条 篠崎、今日の放課後さあ、ちよつと体育館裏来な

カエデ なんて、

一条 ちよつと口開かないでよ気持ち悪い、いいから言われたとおりにしろよ

カエデ …分かった

吉野 おい、篠崎大丈夫か？何言われたんだ？

カエデ …、別に。

吉野 おい？篠崎どうした？俺、なんか怒らせることした？

カエデ ちがう！違う、けど…

吉野 けど？

カエデ モミジちゃんが、吉野くんと話すなって言うから、ごめんなさい。

吉野 双子の姉貴ってやつが？なんで？

カエデ …とにかく、ごめんなさい！

(足音が遠ざかる音)

吉野 なんだよそれ…モミジってやつ、なんなんだよ…

カエデ 一条さん？来ましたけど、きゃあ！

(突き飛ばす音)

一条 おっそ。篠崎のくせにあたしたちを待たせるとか何様？

カエデ ごめんなさい…

一条 つうかさ、なんか最近調子のとってない？もしかして吉野が味方になったとか思っちゃってるのかなー？

カエデ そんな、そんなこと…

一条 あんたなんか、一生ひとりぼっちなんだよ。ほら、吉野くーん

吉野 一条、これはどういうつもりなんだ？

カエデ え、吉野くん！？どうして、

吉野 一条に呼ばれた。おい、用がないなら俺は帰る

一条 まあ待ちなよ吉野。どーせ帰ったって家には誰もいないんだしさ？

吉野 ……どういう意味だ

一条 聞いたよ？あんたんち、今離婚で揉めてお母さん家飛び出したんだってね
吉野 てめえに関係ねえだろ！

一条 ほんとかわいそーだね。お父さん、お酒ばっか飲んでどっか行ったんで

しよ？学費とかこれからどうするの？

吉野 ふざけんな…

一条 そんなかわいそーな吉野くんのこと、学校の全員に教えてあげよっか？誰
吉野 かが憐れんでお金恵んでくれるかもよ？

吉野 いいかげんにしろ！黙れ！

一条 じゃあ今すぐ篠崎のこと殴って見せて

吉野 はあ？

一条 そしたらもういじめないであげる。今言ったことも黙っててあげるよ？

吉野 おまえ…きたねえぞ…

一条 なんで？ゴミを殴るくらい、別にたいしたことじゃないじゃん。あ、殴ったら手洗いに行っっていいよ？

吉野

ふざけんな、俺はもう行く。

カエデ

吉野くん！いいです、殴っていいから、早く！

吉野

篠崎！お前何言ってるんだよ！

カエデ

私は慣れてるから！このままじゃ吉野くんがっらい目にあっちゃう！

一条

ちよつと、悲劇のヒロイン面しないでよ、虫唾が走る

(蹴る音)

カエデ

ぐっあ、！

吉野

篠崎！

カエデ

…いいから、吉野くん。

吉野

何がいいんだよ、こんなひどいことされて、何がいいんだ！

カエデ

吉野くんがっらいのは、いやだから。

吉野

篠崎…

カエデ

話しかけてくれて嬉しかった。だから、もう充分です。殴って吉野くん。

吉野

…うああああ！！！！

(殴る音)

一条

あはは、ナイスパンチ！

吉野

俺…最低だ…！！

モミジ

ホント、最低だな。

吉野

え？

(殴る音)

モミジ

だから、私だけ信じてればいいのに。カエデちゃんのバカ

一条

なに、アンタ

モミジ

私？私は篠崎モミジだよ。あんたのこと、ぶちのめしに来た

一条

なっ、何いってるの！？頭おかしいんじゃない！？

モミジ

さあ？少なくともあんたよりはマシ。

吉野

モミジ：おまえがモミジか：

モミジ

だったら何？

一条

ちよつと吉野、これどういうこと？なんなのコイツ！！

モミジ

あーうっさいな。ちよつと黙ろうか、どうして欲しい？あんたのすきな無駄口いっぱい叩けるようにその口もうちよつと横に開けてあげよつか。

(カッターの刃を出す音)

一条

や、やだ：あんた、あたしにそんなことして、どうなるか：

モミジ

どうなるの？教えてよ。ほら？

(なぐる音)

モミジ

ほら、ほら、教えてよ、ねえ！：ツチ、白目むいてんじゃねえよキツモ。

カエデ

：モミジ、ちゃん？

モミジ

カエデちゃん、大丈夫？痛かったね、大丈夫、今この裏切り者の吉野も痛めつけてあげるね。

カエデ

な、何言ってるの、やめてよモミジちゃん！カッター下ろして！危ないよ！

モミジ

危ないから何？こいつはカエデちゃんより自分の方が大事なんだよ？自分のためにカエデちゃんのこと殴ったんだよ？

カエデ

違う、違うの、私が殴ってって言ったの！吉野くんは優しい人だよ！

モミジ

もう我慢しないでいいんだよ。カエデちゃん分、私がコイツを罰してあげる。私がカエデちゃんを守る。

カエデ

止めて！そんなの違う！そんなの守ることじゃない！こんなのおかしいよ、

こんなのモミジちゃんじゃない！

モミジ

：モミジちゃんじゃない？

カエデ

そうだよ、こんなのモミジちゃんじゃないよ。モミジちゃんはいつも優しく強くて、ずっと私の憧れで、こんなひどいことする人じゃない！貴方なんか私知らない：私のモミジちゃんを返して！

モミジ カエデちゃん、私が誰か知りたいの？

カエデ ……どうということ？

モミジ 私はね、カエデちゃんだよ

カエデ ……何言ってるの、真面目に話してるのにそんな

モミジ 私はカエデちゃんだよ。そして、カエデちゃんは私。

カエデ 分かってるよそんなの。だって、私達は双子なんだから、

吉野 篠崎、もういい。カッターを下ろせ

カエデ ほら、吉野くんもあ言ってるよ、とにかくモミジちゃんカッターを、

吉野 ちがうよ、俺は篠崎に言ってるんだ

カエデ え？分かってますよ、だからモミジちゃんに

吉野 俺は、お前に言ってるんだ、篠崎カエデ。

カエデ ……、何言ってるんですか？吉野くん。私はカッターなんか…

(カッターの刃の出る音)

カエデ ……何、これ。何で私がこんなの持ってるの？いつのまに、誰が持たせたの？

吉野 篠崎、ごめん。もっと早く言うべきだった。

カエデ ……どうということですか？

吉野 いいか篠崎、落ち着いて聞いてくれ。…篠崎モミジなんて、いないんだよ。

カエデ やめて、意味分かんない。だって、今もいるじゃないですか、吉野くんの

目の前に立ってる、ほら

吉野 俺の目の前に立ってるのは、篠崎カエデ、お前だけだよ。

カエデ ……やだ、言わないで

吉野 モミジは、お前の心の中にしかないんだ

カエデ やめて！もういい！！

吉野 お前は、多重人格なんだよ

カ・モ やめるおとおおお！！！！！！！！

(殴る音)

カエデ …なんで気付いたの？

吉野 お前、モミジか？

カエデ そうだよ、今カエデちゃん是我的の中で眠ってる。もう目を覚ます気はないわ。かわいそうに、よっぱどショックだったんだなあ、私がないこと

吉野 そうか：

カエデ ねえ、いつから知ってたの？私がないって

吉野 前に双子の姉貴がいるって聞いたときから変だなって思ってた。あいつ前に姉を待たせてるって言って帰ったから、同じ学校にいるんだと思ってた。でも双子なら同じ学年にいるはずだ。なのに篠崎がいじめられてるのに何も言ってこない姉貴なんておかしいだろ、しかもあいつといつも一緒にいるって言っただから、仲もいいはずだし。

カエデ それで私のこと調べたの？

吉野 正確にはお前が篠崎に俺と話すなって言っただけで聞いてから調べ始めたんだ。でもあいつ友達いないし、結局先生のとこに聞きに行った

カエデ ああ、あの馬鹿教師？どう、私のこと聞いて、怖がった？ふるえてた？

吉野 先生はあれ以来病院から一回も外に出てない。

カエデ さまあみろね！一生引きこもってればいいのよ！

吉野 先生は俺に教えてくれたんだ、篠崎はずっと一人っ子だし、姉と呼べる人なんていないって。二重人格のことも、先生が気がついたんだ。それで、先生に頼んだんだ。一緒に来てくれって。

(足音が近づく音)

先生 し、篠崎さん：

吉野 一条に呼ばれた時、俺も先生を呼んでたんだ。ちょうどいいから、先生から篠崎に話してみてくれって。

カエデ

先生

カエデ

先生

カエデ

先生

カエデ

先生

カエデ

先生

カエデ

先生

カエデ

先生

：は、おつどろいた、よくのこのこと顔出せるよね。あんたのせいでカエデちゃんがどれだけ傷ついたか：ああ、お仕置きが足りなかったのかな？ひい、や、やめて篠崎さん！もうやめて！

やめて？カエデちゃんが何度心の中でそれを叫んだと思ってるの？何度も何度も、私の中にガンガン響いてくるのよ。あんたに分かる？気が狂いそうなくらい、もうやめて、もうやめて、もうやめて！

ごめんなさい、本当にごめんなさい！私篠崎さんの心を見ない振りしてきたの、先生として最低なことをしたわ！だから、だからこそここに来たの！はあ？今更あんたが来て何になるのよ

たしかに今更かもしれないけど、それでも私は篠崎さんに謝りたかったのはっ、そんなの無意味よ。もうカエデちゃんは目を覚まさない。私は永遠に、篠崎モミジよ

それが何だっというの！

：は？

あなたはあなたよ。どんなに人格がいたって関係ない、吉野くんと話したい感情も、一条さんにいじめられて憎む感情も、みんなあなたのもものよちがう！私はカエデちゃんじゃない！カエデちゃんはやさしくて、いい子で、人を恨んだりなんかしないの、いじめられたって無視されたって、いつもかわいそうなくらい優しいの！だから、私が全部引き受けるって決めたの。人を憎むのも、疎むのも、殴るのも蹴るのも、カエデちゃん自身を愛することさえ、全部私が背負うの。私がカエデちゃんを守るのよ！

そうよ、それでいいのよ

：それで、いい？

全部、普通のことよ。誰かを恨むのも、恨まないのも、自分を愛するのも、自分を愛さないのも、全部、普通のこと。

先生
ただ、あなたたちはそれをふたりで半分こしているの。ただそれだけのことだったのよ

カエデ
：ただ、それだけ

先生
だって、モミジはカエデで、カエデはモミジなんでしょう？

カエデ
あ、あ：

ひとつ、先生があなたも篠崎さんも知らないことを教えてあげる。私を殴っている時、あなた、とても悲しそうな顔をしていたわ。

カエデ
そっ、そんなはず！

先生
カエデさんも、モミジさんも、優しいのね。いい生徒を持って、嬉しいわあ：
う、つく、うわあああああ！！！！

吉野
おはよう、篠崎

カエデ
おはよう、吉野くん

吉野
あ、それと、おはよう篠崎

カエデ
ええ？なんで二回言うの？

これはモミジの分。俺は、カエデともモミジとも、友達になるって決めたんだ

あはは、いいよ一回で。私たちはいつも一緒だから。私が友達なら、モミジちゃんも友達だよ

吉野
んー、なんかモミジに怒られそうだな：

モミジ
分かってんじやんゴミ吉野

うっわ、急にくんなよモミジ！

うるさい。ていうかあんまりカエデちゃんとなれなれしくするな、殺すぞしようがないだろー、おれら友達なんだからさ

モミジ
何が友達だっつー！男女間の友情なんて成立しないんだよ！

吉野

はいはい、今度はカエデが怒るぞ

モミジ

知らないよ、あの子はもつと怒ったほうがいいの。私が怒らなくても、ちやんと怒れるようにならなきゃ

吉野

…そうだったら、お前は消えるのか？

モミジ

ふん、愚かものめ、そうだったら私はカエデちゃんとマックス一つになんの！崇高な愛の形だ！どうだ、うらやましいか童貞？

吉野

う、うるせえよ！！カエデの顔でそういうこというな！なんか崩れる！ふふ、まあ、それまでせいぜい仲良くしてやってよ

モミジ

え？

カエデ

…ちよつと吉野くん、いまカエデちゃんと何話してたの？

吉野

あれ、もしかしてカエデ？聞いてなかった？

カエデ

モミジちゃんが教えてくれなかったの。ねえ、何？なに話してたの？

吉野

んー、内緒！

カエデ

ええ？いじわるう！もう、今日は先生のお見舞い、一人で行くからね！

吉野

まあまあおこんなって。あ、そういえば一条のお見舞い、本当に行くのか？

カエデ

うん、やっぱり私たちのせいだし。それに、ちゃんと言わなきゃいけないことがあるから。

吉野

言わなきゃいけないこと？何それ？

カエデ

ずつと我慢してたの、でも、もう大丈夫。

吉野

そっか

カエデ

だからおつきい声でいってやるんだ！

カ・モ

私は一人ぼっちなんかじゃないよ、バーカ！